

浅里に誕生した新しい生命

トンビのひな



今回の珍百景は、浅里地区の昼嶋近くで見つけたトンビのひなを紹介합니다。巣は県道小船紀宝線のすぐ横に立っている木に小枝を集めて作られており、大きさは約60センチほどもあります。

巣にはクリツとした目がかわいらしいひなが1羽おり、親鳥がエサを持つてくるのを心待ちにしているようでした。写真では茶色の羽毛の間から生え変わる前の白い羽毛がちらほらと見えているのがわかります。第一報をいただいた浅里の方に話を伺うと、撮影日の2日前には、全身が白い産毛で覆われていたそうです。

鳥に詳しい井田の清水勝海さんしみずかつみにお話を伺うと、トンビは高いところに巣を作ることが多いそうですが、このように低いところに巣を作るのはあまりないとのことでした。

浅里に誕生した新しい生命がすくすく成長していくよう温かく見守ってきたいですね。

— 珍百景を募集!! —

皆さんが見つけた珍百景を募集しています。「なんやこれ?」って思わず言ってしまうような、珍百景情報がありましたら、ぜひ役場企画調整課広報係(☎33-0334)までご連絡ください。お待ちしております。

つむじりや

トンビの子育てに感動!!

上の珍百景のトンビについてちょっといい話を聞いたので紹介させていただきます。トンビの巣の話聞き、写真を撮りに向かったのですが、親トンビの姿が見えず、また、ひなもあまり動かないので、ちゃんと育てているのか少し不安になりました。上の写真を撮影しました。



雨からひなを守るトンビ(イメージ)

その後、台風が来た日に雨風を防ぐために親トンビが羽を広げ、巣にいるひなを包みこみ守っていた姿を見たというのです!!

まさしく全身で包み込む親の愛情ですね。ひなもすくすく成長したそうで一安心。僕もトンビを見習って、そんな親になればと思っ今日このごろです。

(子育ての邪魔してすみません 愛野裕基)

ホタルの光に癒されました

僕は紀宝町に18年間住んでいます。町内に、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルという3種類のホタルが生息していることを恥ずかしながら初めて知りました。

今月号の表紙にもなっているヒメボタルは、町内の方に教えていただき撮影したものです。

ヒメボタルはゲンジボタルよりも光の点滅が早く、真っ暗な森の中でたくさんさんのヒメボタルが発光している姿は、森の中に見えるはずなのに星を見ているような不思議な感覚になりました。

この光景が見られる自然を大事にしていかななくてはいけないと思いました。

(知のなごころ)が多すぎぬ 田中健太郎)



田中健太郎



愛野裕基

紀宝の
珍百景
認定